

NIKKEI DESIGN

No Design, No Business



デザイン
マーケティング
特集1

7つの型から学ぶヒット商品の作り方

デザインでひっかる
商品企画

特集2

新日本ブランドの仕掛け人たち

わかりやすさ一番
メーカーの
テクニク書

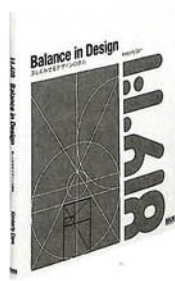
本書はドイツ人プロダクトデザイナーによる、マークスケッチのテクニク指南書である。自動車から家具、医療機器、携帯端末、建物まで、主に工業デザインの場で使われるマークスケッチの書き方を手ほどきする。各国のデザイン書を比較すると、事細か、と言う点では日本のテクニク指南書に勝るものはなさそうだが、逆に初心者にとってはあまりにも細か過ぎたり、情報量が多過ぎて圧倒されたりすることがあるのではないだろうか。その点で、まずはビジュアル中心の本書は非常にユーザーフレンドリーだ。A4サイズと大きな判型で、かつ、文字も少なく簡潔にまとめている。こうした知識を備えておくことは実際にスケッチをする人だけでなく、スケッチを使ってプレゼンをされる側にも役立つだろう。



「マークスケッチ デザインブック」
アレクサンダー・オット・著
157ページ／3800円(税抜き)
発行: トゥールズ
問い合わせ先: <http://www.tools-web.com/>

デザインを幾何学で
解釈する

日々刻々と新しいデザインが生まれ、消えていく一方で、名作と呼ばれ、何十年にもわたって記憶され生き残っていくデザインもある。これらの名作の秘密は一体何なのだろうか。その秘密を、幾何学的に説明してくれるのが本書だ。黄金比や数列の基礎知識から始まって、チャールズ・イームズやミース・ファン・デル・ローエの椅子、カッサンドルやヤン・チヒョルトのポスター、ブラウンのミキサーやフォルクスワーゲンのビートルなど、実例を挙げポスター、建築、プロダクトを解説する。作品例のページの上に、幾何学線だけを抽出したトレーシングペーパーのページを重ねてあり、視覚的にも理解しやすい。



「Balance in Design 美しく見せる
デザインの原則」
キンバリー・イラム・著
デザイン: 半澤雅仁
(Power Graphixx)
118ページ／1800円(税抜き)
発行: ビー・エヌ・エヌ新社
問い合わせ先: 03-5339-3889

デザイン史の
世界地図

20世紀のデザインを俯瞰(ふかん)した本書はグラフィック、プロダクト、建築、ファッションを10年ごとに区切り、年表とそれぞれに代表的なデザイン作品合計134項目を選び出し、コラム仕立てで紹介している。著者は本誌にも寄稿しているデザインジャーナリストの渡部千春氏と、マサチューセッツ州立大学助教授のサラ・ティズリー氏。文章ベースのデザイン史が多い中ではざっくりとした印象だが、ピンポイント化することで、より大きな視点で過去100年を見ることが出来る。まるで、デザイン史という世界地図を広げているような感覚である。日英併記なので、海外のクライアントに日本のデザインを説明するのにも役立つだろう。



「20世紀デザインヒストリー」
渡部千春+サラ・ティズリー・著
デザイン: 後藤隆哉
176ページ／2500円(税抜き)
発行: プチグラブパブリッシング
問い合わせ先: 03-5366-2400

デザイナーと
メーカーの
お見合い成功!

福井市の地域産業創造会議が地域産業とデザインとの融合を進めるためにスタートしたプロジェクト、と聞くとちょっとお堅いモノと思われるかもしれないが、どっこい、実にかわいらしく、かつ「見て買いたくなる」キッチン製品に仕上がっている。これはひとえにメーカーとデザイナーの組み合わせの良さによる。フラスコ×山内スプリング製作所、Goma×荒川レース工業、廣田尚子×高村刃物製作所、wool,cube, wool!×ネオテックス、五十嵐久枝×福地、本書ではこの5組がどんな風にものづくりを進めたか、どんな製品が出来たのか、さらにどうやって買えるのか、まで丁寧を追っている。これから地場産業と組んでプロジェクトを始める、というデザイナーにお勧めの本だ。



「おいしいキッチン はじめました。」
おいしいキッチンプロジェクト・企画
酒井俊彦・監修
デザイン: 庄子結香/カレラ
158ページ／1500円(税抜き)
発行: ラトルズ
問い合わせ先: 03-3511-2785

おいしいキッチン プロジェクト

プロジェクトをまとめた書籍「『おいしいキッチン』はじめました。」を43ページで紹介しています。

コスト意識してデザイン 販路開拓し売る仕組み作る



左から、二口誠一郎氏、酒井俊彦氏、紫牟田伸子氏

天板の下に収納棚を設けたテーブル、樹木の形をした突起があり風景を思わせる水切りラック、野菜や果物をつるして収納するネット——。キッチン用品ブランド「おいしいキッチン」は、ほんの少しの努力でキッチンやダイニングが片付き、楽しく食事できるよう提案する。このブランドは、福井県福井市の地場産業を復興するためのプロジェクトだ。

福井市は明治のころから、繊維の町として発展。繊維の生産に欠かせない機械工業も栄えた。しかし、最終製品ではなく生地や部品といったパーツを作ってきたため、中国など安いコストで製造でき

る地域に仕事を奪われ、福井の地場産業は衰退の一途をたどっている。

こうした地場産業を復興すべくプロジェクトを立ち上げたのが、地元の有志と日本デザインセンターの紫牟田伸子氏とプロダクトデザイナーの酒井俊彦氏だ。地場産業とデザイナーが手を組むことはしばしばあるが、ほとんどがビジネスに発展しない。福井での取り組みは、最初から事業として成立させることが目的だった。「メーカーにもデザイナーにもはっきりノーを言える人だから、酒井さんにデザインのディレクションを依頼した」と紫牟田氏は話す。

キッチンやダイニングが片付いていない家庭が多いことに目をつけ、そうした現状を解決するキッチン用品を製作することにした。扱う素材とジャンルを考慮して酒井氏がデザイナーを選定し、福井のメーカーと組み合わせ、5組のカップリングが誕生した。

体温で色が変わる家具などインパクトのある仕掛けを製品に施すフラスコと、スプリングメーカーの山内スプリング製作所。料理を中心にトータルにプロデュースするGomaと、多彩なレースを生み出す荒川レース工業。機構や素材をシンプルながら有機的な形に昇華する廣田尚子氏と、一流シェフからも依頼を受ける高村刃物製作所。異なる素材を大胆に組み合わせ、ファッション小物を製作するwool.cube.wool!と、高機能繊維の開発に力を入れるネオテックス。空間デザインや数多くの家具製作プロジェクトを手掛ける五十嵐久枝氏と、創業明治42年の老舗家具メーカーの福地。

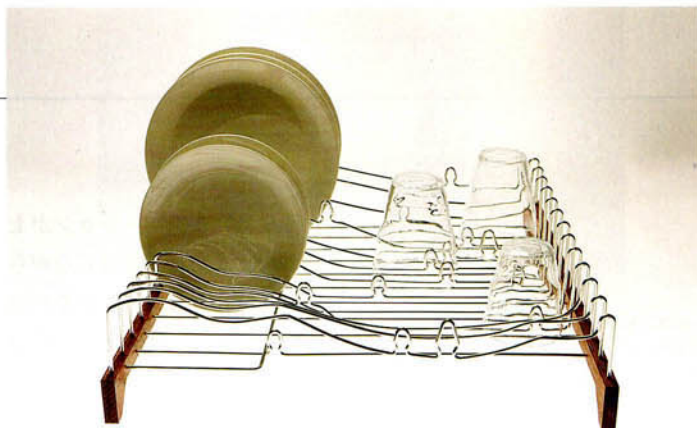
定番商品もデザインさせる

デザイナーとメーカーの間に酒井氏が立ち、製品作りをコントロール。自由な発想で生まれたデザインを、コスト意識を持って製品に落とし込ませた。「事業として成立させるには、デザインに凝ったものだけでなくストライプ柄など定番商品も必要。デザイナーには自身のテストと合わなくても、そうした商品のデザインも依頼した」と酒井氏は言う。

福井で印刷とインターネットサイトの企画・開発をする会社を経営する二口誠一郎氏をはじめとする地元の有志は、売するための仕組み作りを奔走した。販路を確保するために東京で専門の営業担当者を雇った。市の助成金事業で営業担当者を雇うなど、通常あり得ないことだ。ま



ラウンドテーブル（五十嵐久枝＋福地）。テーブルの上には物を置きがちだが、天板の下に収納棚を備えることで解決



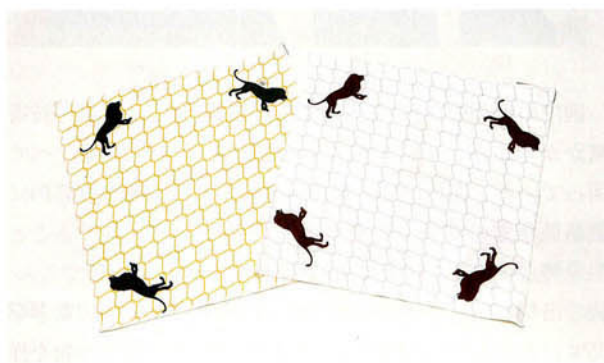
水切りラック (フラスコ+山内スプリング製作所)。山並みに見立てた造形がユニーク



スナックボウル (左と同じ)。中身を取るたびにボヨヨンと揺れる



上：ベジネット (Goma+ 荒川レース工業)。ジャガイモや玉ねぎなど根菜類やリンゴをつるして保存するレースのネット
左：レースコースター (上と同じ)。動物のシリーズ (写真) のほかに数字のシリーズがある



ライオンの台ふきん (wool,cube,wool!+ ネオテックス)。吸水力が高く油分を除去するマイクロファイバー製



包丁とまな板 (廣田尚子+高村刃物製作所・福地)。シンプルだが末広がり握りやすい柄の包丁。まな板は35ミリメートルの厚さがあり、立てて置ける。側面が内側にカーブしているため水はけがよくカビがつきにくい

た、必要とあれば福井市外のメーカーも招き入れた。包丁を製作する高村刃物製作所は越前市の会社だ。「福井市に包丁を作るメーカーがないという理由で、まな板は出すけど包丁は作らないのは、事業という観点からすればおかしい」と二口氏。嫌な顔をする市を説得して高村刃物製作所を引き入れた。

10月に東京で開いたプロジェクトの

発表会は、プレスとバイヤーを呼んでの展示即売会にした。用意した在庫は、ほぼ完売。大盛況だった。自分たちの作った製品が次々と売れていくのを目の当たりして、売れるのか疑心暗鬼だったメーカーの心も変わった。

11月に入り、東京・代官山のアッサンブラージュなどインテリアショップや、百貨店の銀座松屋など店舗での販売が始

まった。玉川高島屋からは「おいしいキッチン」のコーナーを作って販売したいと声がかかっている。通信販売も千趣会など大手で扱われる予定だ。市の助成金事業のため、年度末の2006年3月までに結果を出し報告しなければならない。それまでの売上目標は5000万円。「現在のペースなら何とか達成できそう」と二口氏の口元はほころぶ。